

## 国際シンポジウム開催

札幌・船橋・小田原・横浜(全交大会)

# 平和とは、戦争のない人権 が守られる社会の実現だ!

この秋は札幌(9月)小田原(11月)で

その一步を踏み出します!



無防備地域を規定したジュネーブ条約第一追加議定書30周年を記念した国際シンポジウムは、札幌(7/29)、船橋(7/31)、小田原(8/2)、横浜(8/4)で開催された。パネリストはフィリピン・ミンダナオ島で政府軍も武装勢力も入れない地域、ピースゾーン運動を展開している、ベンジャミン・アバディアーノさん、米国でイラク撤兵を求める住民投票運動を取り組んだラエド・ジャラルさん、枚方無防備運動から、地域を変え、ため今春市長選に立候補した、おれた幸世さん、無防備全国ネットの矢野秀喜さんであった。

アバディアーノさんは、ピースゾーンについて述べ、更に「紛争させない。可能ならば軍隊も置かせない。人権は尊重し住民の権利は保障する。これがピースゾーンの原則」。「ピースゾーンは軍隊によって守られたり支配されてはいけない。住民が守る。軍隊は平和を維持しない」「平和とは戦争がない状態だけではない。不正義、権利に対する軽蔑等これらを解決することは、革命に近い改革となる。あなた達の運動は未来に起きる問題を予防する非常に大切な運動である。」と激励した。

このシンポジウムでは、地域から軍隊をなくし、人権が尊重され

る社会をつくるのが世界中で求められており、それに答えるのが無防備地域宣言運動であることが明らかになった。

また、今秋署名に取り組む札幌市、神奈川県小田原市から発言があり、全国の支援で成功させることが確認された。翌日(8/5)の無防備地域宣言運動分野別討議では、3分散会に分かれて、具体的な討議を行った。

以下、武力紛争から住民の命と安全を守るため平和を取り戻し、人権の尊重されるピースゾーンの確立へと着実に歩を進めるピースゾーンの取り組みを要約して掲載する。

「平和のサンクチュアリ」の住民報告者

ベンジャミン・アバディアーノ  
「アッシジ開発財団代表 04年  
マグサイサイ賞受賞」

### 平和のサンクチュアリの背景

2000年3月に始まり2003年まで続いたフィリピン国軍(AFP)とモロ・イスラム解放戦線(MILF)間の新たな武力紛争は、南フィリピンの100万人以上の罪のない民間人の生活に想像を絶する苦痛

をもたらした。何千戸もの家屋が全焼または損壊し、多くの子どもたちがそこで死に、生き延びた多くの男女が絶望と恐怖に直面した。

平和をつくりだす仕事を政府と武装グループに任せおくことはできないと、私達は平和に生きる権利を主張した。イスラム教徒およびルマド族はキリスト教徒移住者との平和で協調的な関係を復活させることを決意した。彼らの平和を求める熱い思いに突き動かされて、地域リーダーたちは、近隣地域に住む隣人であるキリスト教徒たちとの対話を通じて平和を構築する取組みに向かった。その結果、フィリピン国軍(AFP)とモロ・イスラム解放戦線(MILF)それぞれの間に平和協定が締結された。



ベンジャミン・アバディアーノさん